

調達コードの実施状況について

2024年2月21日 第10回持続可能な調達ワーキンググループ

公益社団法人
2025年日本国際博覧会協会
企画局 持続可能性部



1. 持続可能性に配慮した調達コード（第2版）の策定・公表

- 前回までの調達WG及び持続可能性有識者委員会におけるご議論を踏まえ、農・畜・水産物及びパーム油の個別基準を追加するなどの修正を加えた「持続可能性に配慮した調達コード（第2版）」を2023年7月に策定・公表。
- また、調達コードの不遵守に関する通報を受け付け、これに適切に対応するため、実施体制、対象案件、案件処理のプロセス、所要の手続、運用等を定めた「持続可能性に配慮した調達コードに係る通報受付対応要領」及び「持続可能性に配慮した調達コードに係る通報受付対応における助言委員会及び通報対応アドバイザー会議による助言等に関する要綱」を策定・公表。
- 大阪・関西万博において持続可能性に配慮した調達を実現することを目指して、サプライヤー、ライセンサー、パビリオン運営主体等及びサプライチェーンをはじめとした関係者のご理解・ご協力を得ながら、調達コードを運用。調達コードの実効性を確保するため、調達コードの普及、物品・サービスの調達への導入、参加者への要請、博覧会協会における遵守状況の確認、サプライヤー・ライセンサーへのヒアリング、通報受付対応（グリーンバンス・メカニズム）の体制整備等に取り組んでいるところ。

2. 調達コードの普及

■ 調達コードの解説・認証スキームに関する申請書の作成・公表

- ・ 事業者など関係者が調達コードの内容について理解を深めることができるよう、項目ごとの背景や考え方、具体的な取組事例等を取りまとめた調達コードの解説を作成し、博覧会協会ウェブページにて公表。
- ・ また、各個別基準への適合度が高いものとして博覧会協会が認める認証スキームに関する申請書やチェックリストの様式を作成・公表。

調達コード解説、認証スキーム申請書

関係者の皆様が調達コードの内容について理解を深めることができるよう、項目ごとの背景や考え方、具体的な取組事例等を取りまとめた調達コードの解説を作成しました。

また、各個別基準への適合度が高いものとして博覧会協会が認める認証スキームに関する申請書等の様式を作成しました。

※博覧会協会が認める認証スキームに関する申請手続きについては、各個別基準の解説に記載していますので、そちらをご参照ください。

共通基準

内容を表示

個別基準－木材

内容を表示

持続可能性に配慮した調達コード（第2版） 解説

<共通基準>

2023年11月
公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会



各個別基準（木材、紙、農・畜・水産物、バイオ）の解説は博覧会協会HPにて紹介しています。

2. 調達コードの普及

■ イベントや講演会における調達コードの周知

- ・協会主催行事（国際企画会議（IPM）、民間パビリオン出展者・ライセンス商品関連事業者・協賛企業等向け説明会、近畿経済産業局共催「人権に配慮した企業経営セミナー」等）
- ・外部行事（大阪・関西万博開催支援EXPO、大阪商工会議所・NGO・認証団体等が主催するイベント・講演会等）



2023年10月 IPM

人権に配慮した企業経営セミナー
～大阪・関西万博を契機とした人権に配慮した企業経営について～

セミナー開催趣旨
企業のグローバル化の進展によって、サプライチェーン等における人権への配慮は大きな責任となっており、今後の企業経営における重要な課題となっています。大阪・関西万博におきましても、SDG s 達成を実現するため、持続可能な万博運営を目指していることから、当協会が定めました調達コードにおいても、人権への配慮は、重要なポイントとなるなど、2025年の万博開催を見据え、企業活動における人権侵害についての国際的要求は、さらに厳しくなるものと予想されます。このため、今後の企業経営に必要な国際スタンダードの知識と、実際に企業に求められる取組について、日本で事業活動を行う企業の実態に即して具体的なかつ分かりやすく解説するセミナーを開催いたします。本セミナーをきっかけとして、皆さまの今後の企業経営の一助となれば幸いです。

主催	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 近畿経済産業局（関西SDG s 貢献ビジネスネットワーク）
定員	（対面）100名 参加無料
日時	2023年9月5日（火）15:00～17:00（開場14:30）
場所	<p>大阪合同庁舎1号館 第一別館 大会議室 住所：大阪市中央区大手前1-5-44</p> <p>・Osaka Metro 谷町線「天満橋」駅3号出口が最寄り出口です。 「谷町1」交差点を東に約100メートルです。 ・ご来場の際は公共交通機関をご利用頂きますよう、ご協力お願いいたします。 ・第1別館には、合同庁舎1号館のセキュリティゲートを通過せず入場できます。合同庁舎の裏側にお回りください。 別館経路 (meti.go.jp)</p>
内容	<p>【テーマ】国際スタンダードを踏まえた企業に求められる取組について</p> <p>①「大阪・関西万博の概要と調達コードにおける人権への配慮について」 2025日本国際博覧会協会 持続可能性部</p> <p>②「国際労働基準と持続可能性に配慮した企業経営」 国際労働機関（ILO）駐日事務所</p> <p>③「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」 経済産業省 大臣官房ビジネス・人権政策調整室</p>

2023年9月 近畿経産局共催セミナー

2. 調達コードの普及

■地元自治体（大阪府）における取組み

- ・大阪産（もん）データベース：調達コードの周知・適合品の紹介

より良い未来へ向けて

調達コードが登場したのは、国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択された2015年のミラノ万博から。

2023年現在、サステナブルな選択を支持する傾向が世界的に強まっています。

調達コードに適合する物品・サービスを選ぶこと、支援することは、事業者にとっても、将来的な発展につながる第一歩です。

どんな商品があるのかチェックしてみましょう

SDGs food このマークが目印です

出典:大阪産(もん)HP

- ・万博商談もずやんモール：調達コードの周知

お知らせ一覧ページを開く >

持続可能性に配慮した調達コードについての詳細・解説（博覧会協会サイト）

取引先を探す

出典:万博商談もずやんモールHP

3. 物品・サービスの調達への導入

博覧会協会における物品・サービスの調達においては、各部局や調達担当部局の理解・協力のもと、調達コードの遵守を担保するための仕組みを導入。調達担当部局とも連携して、各部局の職員に向けて、調達コードの運用に関する説明会を開催。

■仕様書作成時

- 各部局で仕様書を作成する際に、関係書類（入札公告や公募要領）に持続可能性の確保や調達コードの遵守に関する内容を記載。
- 契約書を作成しない場合は、同等の内容を記載した持続可能性に関する留意事項を事業者に交付。

■入札・プロポーザル実施時／随意契約の見積徴取時

- 各部局が、事業者からチェックシート（持続可能性の確保に向けた取組状況に関する質問票）を受領し、調達担当部局に提出。

■契約締結時

- 各部局が、事業者から持続可能性の確保に向けた誓約書を受領し、調達担当部局に提出。
- 契約書雛型に持続可能性の確保や調達コードの遵守に関する条項を盛り込み。



4. 参加者への要請

大阪・関西万博への参加者（会場整備参加・運営参加、営業参加、催事参加など）の公募においては、持続可能性の確保や調達コードの遵守に関して明示し、チェックシートや誓約書の提出を求めるとともに、参加契約において調達コードの遵守を担保。

■公募時

- ・公募要領に持続可能性の確保や調達コードの遵守に関する内容を記載。

■応募時

- ・応募者からチェックシート（持続可能性の確保に向けた取組状況に関する質問票）や誓約書を受領。

■契約締結時

- ・契約書雛型に持続可能性の確保や調達コードの遵守に関する条項を盛り込み。
- ・契約書を作成しない場合は、何かしらの書類に持続可能性の確保や調達コードの遵守に関する内容を記載することを検討。



5. 博覧会協会における遵守状況の確認

■ 木材の個別基準に関する確認状況について

1. 趣旨

- 調達コードの木材の個別基準（持続可能性に配慮した木材の調達基準）の遵守状況に関して、博覧会協会発注の施設整備事業（3工区）を対象に①大屋根リング木材及び②コンクリート型枠合板の調達状況の確認を実施。

2. 確認方法

- 大屋根リングを含む3工区の施設整備事業を対象として、整備局担当者を通じて各受注者に確認を実施（2023年10～12月）。
- リング木材については、各受注者に対し、調達ルートに関する調査票の提出を依頼。
- コンクリート型枠合板については、各受注者に対し、使用状況等に関するヒアリングを実施。



5. 博覧会協会における遵守状況の確認

■ 木材の個別基準に関する確認状況について

3. 確認状況

(1) リング木材

- リング木材については、各工区とも外国産材と国産材の両方を使用（国産比率は約6割）。
- 各工区とも、基本的に木材のトレーサビリティは確保されていると思われる。調達基準の適合に関しては、外国産材は認証材を使用、国産材は個別に確認を実施。
- 今後の確認・モニタリング（ヒアリング）において、認証・確認の詳細などについて補足で確認する予定。



5. 博覧会協会における遵守状況の確認

■木材の個別基準に関する確認状況について

3. 確認状況

(2) コンクリート型枠合板 ※主に基礎工事に使用

- ① コンクリート型枠合板が会場整備工事の現場内でどのように使用（再使用の状況など）されているか
⇒「新品と他現場で使用した転用品の両方あり。」、「他現場で使用した転用品は3回程度転用。」、「現場内に納入されたものは転用して使用。」、「現場に搬入されたものは原則2回以上転用。」
 - ② 再使用（転用）のコンクリート型枠合板である場合はすでに別工事で使用されたものであることが確認できているか
⇒「転用品の写真を確認。」、「目視にて確認済み。」、「搬入された型枠は大半が他の作業所で使用されたものであることを確認。」
 - ③ 新品のコンクリート型枠合板である場合は木材の個別基準の遵守が確認されているか
⇒「合法木材製造印画像、転用品ベニヤ画像、事業者認定書を確認。」、「新品はない。」、「新規で搬入された型枠合板は認定書に基づくものであること（事業者認定書）を確認。」
- 今後の確認・モニタリング（ヒアリング）において、認証・確認の詳細などについて補足で確認する予定。

5. 博覧会協会における遵守状況の確認

■ 紙の個別基準に関する確認状況について

1. 趣旨

- 調達コードの紙の個別基準（持続可能性に配慮した紙の調達基準）の遵守状況に関して、博覧会協会におけるポスター・チラシの調達案件を対象に確認を実施。

2. 確認方法

- 博覧会協会における調達案件リストから「ポスター」「チラシ」の調達案件を抽出（2023年12月時点）。（調達コードの運用開始前の案件、ポスター・チラシのデータ制作のみの案件、ポスター・チラシの発送のみの案件などは除外。）
- 各調達案件の仕様書の記載内容を確認。追加で確認が必要なものは個別に問合せ。

3. 確認状況

- 確認の対象としたポスター・チラシの調達案件は9件（2022年度：4件、2023年度：5件）。ポスター・チラシの部数を累計すると、ポスター約70万枚、チラシ約30万枚。
- 9件中8件については、仕様書において認証紙（FSC、PEFC（SGECを含む。））を使用するよう指定。それ以外の1件についても、業者より認証紙（FSC）を使用するとの連絡があったことを確認。

6. サプライヤー・ライセンサーへのヒアリング

調達コード遵守に関する取組状況等を確認することを目的に、サプライヤー等へのヒアリングを実施している。

まずは、サプライヤーのうち建築工事事業者を対象として重点的にヒアリングを実施。また、引き続きライセンサーを対象としてヒアリングを実施する予定。

■ 建築工事事業者へのヒアリング

博覧会協会が発注する、会場整備にかかる建築工事について、受注した事業者へのヒアリングを順次実施している。ヒアリング内容は主に、以下の2点について聞き取りし、確認を行っている。

①「持続可能性の確保に向けた取組状況について」の回答内容

- ・ 調達コードの項目ごとに自身の取組状況について記載したチェックシート（持続可能性の確保に向けた取組状況について）を用いて、各事業者の取組状況や具体的取組内容等について確認。
- ・ 外国人労働者への対応や、作業環境への配慮等について確認。

② 個別基準「木材」対象物品の調達状況

- ・ 建設材料、コンクリート型枠合板等で、調達コードの個別基準「木材」の対象となる物品の調達予定有無を確認、調達予定がある場合は個別基準「木材」に適合することの確認方法、について確認。

6. サプライヤー・ライセンサーへのヒアリング

■ 建築工事事業者ヒアリング実施結果

- ・ 建築工事 5 案件、7 事業者に対してヒアリングを実施。
- ・ 持続可能性の確保に向けた取組状況について、個別基準「木材」対象物品の調達状況、ともに問題となりそうな事項は確認されず、各社とも調達コードの理解、遵守に取り組んでいることを確認した。

①「持続可能性の確保に向けた取組状況について」

項目	主な取り組み内容
通報者に対する報復行為の禁止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部通報、内部通報とも、通報者に対して不利益な取り扱いをしないことをHPで宣言している。 ・ 社内外問わず通報者に不利な取扱いをしないよう研修等で周知徹底している。 ・ 体制強化のため外部の機関に加盟することを検討している。
低炭素・脱炭素エネルギーの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事現場の重機、場内運搬車両でリニューアブルディーゼル燃料を使用している。 ・ 万博工事で、太陽光発電設備設置、自社開発の低炭素型コンクリートを基礎に使用。 ・ 夢洲の工事現場の事務所電源で使用する発電機にバイオ燃料使用、太陽光パネル設置を予定。
3R+Renewable	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観覧席の椅子を、3Dプリンタの材料にして製造できないか取組みをしようとしている。
外国人・移住労働者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人技能実習生に関するヒアリング、アンケート等の調査の結果、大きな人権リスクは認められなかった。

6. サプライヤー・ライセンサーへのヒアリング

■ 建築工事事業者ヒアリング実施結果

①「持続可能性の確保に向けた取組状況について」

項目	主な取り組み内容
外国人労働者の対応、作業環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人労働者も含め、新規入構者を対象に新規入構教育を実施している。現場ルールや安全面の指導、持病確認など全員と面談を実施する。 ・ 外国人労働者には、日本語が理解できることを確認、日本語がわかる人とペアを組むなどの対策をしている。 ・ 外国人労働者が理解できる文字で記載した看板を設置している。 ・ 貼り紙や看板には外国人労働者の母国語を併記、トイレは男女別で水洗・ウォシュレットを設置、など働きやすい環境づくりをしている。 ・ 作業環境について、休憩場所にエアコンやWi-Fiを設置し、協力会社や外国人も使用できる。現場で十分に配慮し、全社の各現場で同レベルの環境を準備している。 ・ 契約先も作業員に対して適切な待遇をしていると認識している。ヒアリングで劣悪な環境にないことを確認、朝礼で顔色を見て問題ないことを確認している。

6. サプライヤー・ライセンサーへのヒアリング

■ 建築工事事業者ヒアリング実施結果

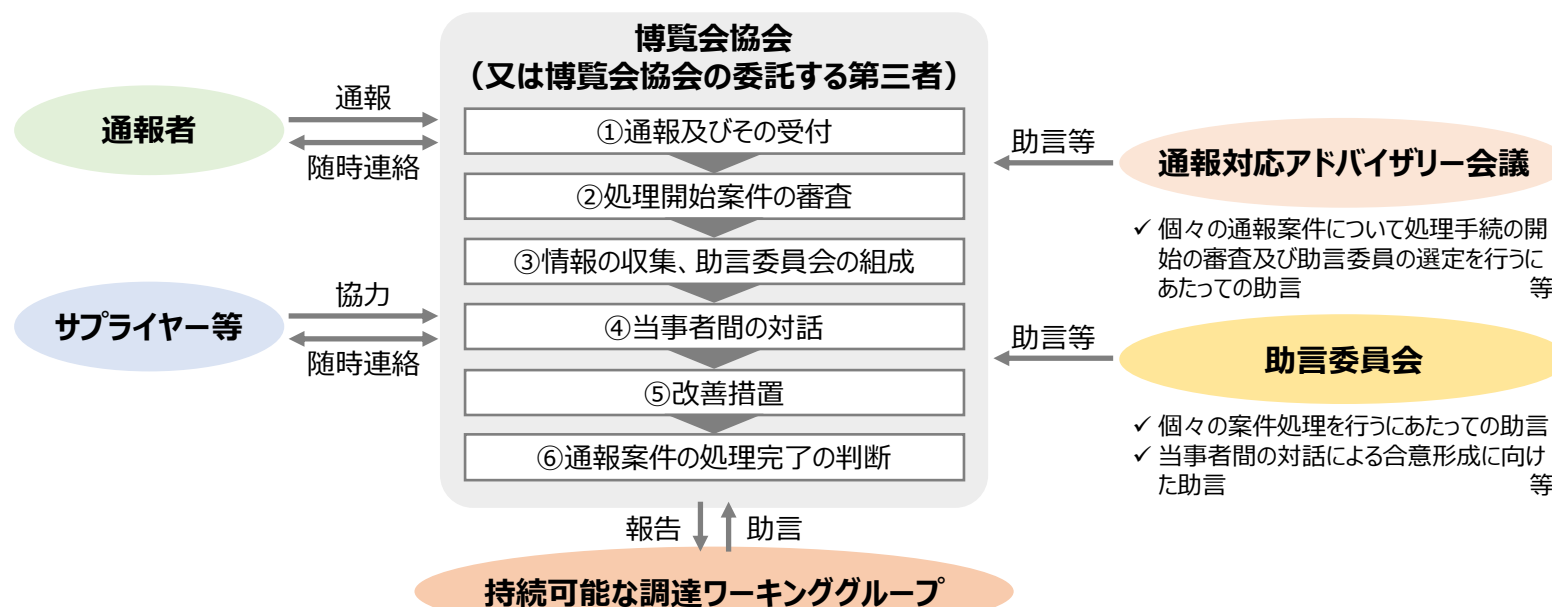
② 個別基準「木材」対象物品の調達状況

項目	主な確認内容
木材の調達状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート型枠合板は基本的に再利用、ごく一部で形がイレギュラーなものなど新品を使うが、製造会社が認証を取得していることを確認している。現地で実物の確認もする。 ・ 基礎工事でコンクリート型枠を使用するが、リサイクル品を使用するようにしている。新材を使用する場合は認証材を使うようにしている。 ・ 通常でも認定された型枠合板を調達するが、万博向けの調達では認定証の提出を求める。仕上げ材の調達については、認証材か他の確認方法による木材とするか協議予定。 ・ 型枠合板は仕入れ時に合法木材であるものを使用、仕上げ材は認証材あるいはその他の確認方法で確認した木材を使用する。 ・ 木材の調達に関し、発注先には調達コードを周知している。 ・ 協力会社に見積もり依頼する際に、調達コードを開示して説明する。基本的には認証材の調達を考えているが、納期などで個別に確認することも含めて検討している。

7. 通報受付対応（グリーンバス・メカニズム）の体制整備

■ 通報受付対応要領等の策定・公表

- 調達コードの不遵守に関する通報受付対応における実施体制、対象案件、案件処理のプロセスなどを含む「持続可能性に配慮した調達コードに係る通報受付対応要領」に加え、通報処理の中立性・公平性を高めるため、有識者で構成される助言委員会又は通報対応アドバイザリー会議から助言等を受けることに関して、その手続、運用等を定めた「持続可能性に配慮した調達コードに係る通報受付対応における助言委員会及び通報対応アドバイザリー会議による助言等に関する要綱」を2023年7月に策定・公表。
- 当面は大阪・関西万博総合コンタクトセンターを窓口として受付。今後、専用窓口を設置予定。



7. 通報受付対応（グリーンパス・メカニズム）の体制整備

■ 通報対応アドバイザーの選任

- ・「持続可能性に配慮した調達コードに係る通報受付対応要領」に基づき、調達WG委員よりお聴きした専門的知見に基づく中立的立場からのご意見を踏まえ、通報対応アドバイザーとして3名（五十音順・敬称略）を選任。

高橋 大祐 （真和総合法律事務所 パートナー弁護士）

富田 秀実 （LRQAサステナビリティ株式会社 代表取締役）

山田 美和 （JETROアジア経済研究所 新領域研究センター長）

<参考>

（１）通報対応アドバイザー会議の所掌事項

- ・ 博覧会協会が対応要領に基づき個々の通報案件について処理手続の開始の審査及び助言委員の選定を行うにあたって、博覧会協会に対して助言を行うこと
- ・ そのほか、博覧会協会に対し、助言委員会の組成にあたって必要な助言等を行うこと

（２）通報対応アドバイザーの選任

- ・ 通報対応アドバイザーは、調達コードの趣旨を熟知し、持続可能性に関連する分野について専門的な知識及び経験を有すると認められる者若干名とし、調達WGの専門的知見に基づく中立的立場からの推薦をもとに、博覧会協会がこれを委嘱する。

7. 通報受付対応（グリーンズ・メカニズム）の体制整備

■助言委員会の委員候補者の選任

- ・「持続可能性に配慮した調達コードに係る通報受付対応要領」に基づき、調達WG委員よりお聴きした専門的知見に基づく中立的立場からのご意見を踏まえ、候補者の人選中。

<参考>

（１）助言委員会の所掌事項

- ・ 博覧会協会が対応要領に基づき案件処理を行うにあたって、博覧会協会に対して助言を行うこと
- ・ 当事者間の対話による合意形成に向け、その円滑な実現を支援するため、当事者又は博覧会協会に対して助言を行うこと
- ・ 上記のほか、博覧会協会に対し、案件処理に関して必要な助言等を行うこと

（２）助言委員会の委員候補者の選任

- ・ 助言委員会の委員候補者は、法律、環境、人権、労働、経済、紛争解決その他持続可能性に関連する分野について専門的な知識及び経験を有すると認められる者4名以上（うち弁護士2名以上）とし、博覧会協会がこれを選定し、委嘱する。なお、その選任にあたっては、各分野間のバランスに配慮するとともに、あらかじめ調達WGの意見を聴かなければならない。



8. 今後のスケジュール

■ 2025年度までの主な活動内容、スケジュールについて

大阪・関西万博終了までの期間（～2025年度）における、調達コード関連の主な取組みは以下のとおり。

（１）調達コードの見直し

- ・ 調達コードの見直しの要否について検討し、必要であれば調達コードを改定する。

（２）調達コード遵守状況の確認・モニタリング

- ・ 博覧会協会の調達案件について、引き続き確認を行う。
- ・ 事業者に対しても、調達コードの遵守状況確認等を目的にヒアリングを継続する。調達に関わる事業者からリスクの高さ等により対象を選定してヒアリングを実施し、調達コードに関する取組状況等を確認する。また確認の結果、必要に応じて改善や取組みの充実を求める。

（３）通報受付対応

- ・ 通報受付対応の専用窓口を設置するなど体制の充実を図り、調達コード不遵守に関する通報を受け付け、適切に対応する。



8. 今後のスケジュール

■ 調達コード遵守状況の確認・モニタリングについて

大阪・関西万博の全体スケジュールを考慮し、各年度の事業者ヒアリングは以下のように計画している。

年度	大阪・関西万博	事業者ヒアリング
2023	<ul style="list-style-type: none"> ・パビリオン敷地引き渡し、建築工事開始 ・万博公式ライセンス商品販売中 	主に個別基準「木材」の調達に関わる事業者、およびライセンス商品の製造・販売に関わる事業者から対象を選定し、ヒアリングを実施する。
2024	<ul style="list-style-type: none"> ・万博公式ライセンス商品販売中 ・営業参加者内定（飲食、物販）（順次発表予定） ・催事カレンダー編成（順次発表予定） 	主にライセンス商品の製造・販売に関わる事業者、および食品関連の個別基準「農産物、畜産物、水産物、パーム油」（食品関連）の調達に関わる事業者から物量の多さ、製造所所在国等により対象を選定し、ヒアリングを実施する。
2025	<ul style="list-style-type: none"> ・万博開催 	主に万博会場で確認できる事項（計画と実施内容の相違等）について確認し、必要に応じて事業者に対するヒアリングを実施する。

8. 今後のスケジュール

■ 持続可能な調達ワーキンググループの今後の開催予定について（案）

2024年度	9月頃	第11回調達WG	・調達コード遵守状況（確認・モニタリング状況報告） ・通報受付対応（通報受付対応状況報告）
	3月頃	第12回調達WG	・調達コードの見直し要否の検討 ・通報受付対応（通報受付対応状況報告）
2025年度	7月頃	第13回調達WG	・調達コード遵守状況（確認・モニタリング状況報告） ・通報受付対応（通報受付対応状況報告）
	12月頃	第14回調達WG	・調達コード遵守状況（確認・モニタリング状況報告） ・通報受付対応（通報受付対応状況報告）
	2～3月頃	第15回調達WG	・調達コード全体総括報告

